

岩木山を考える会
2019年度総会議案書
(確定版)



金枝壽孝氏撮影

日時：2019年4月7日（日）13:30～15:30
場所：弘前市民参画センター

2019年度岩木山を考える会総会次第

日 時 : 4月7日(日)13:30~15:30

場 所 : 弘前市民参画センター

次 第 :

13:30 司会による開会宣言

会長あいさつ

議長選出

13:40 議事

第1号議案 2018年度活動のまとめ

第2号議案 2018年度収支決算報告

会計監査報告

第3号議案 2019年度活動方針(案)

第4号議案 2019年度予算(案)

14:30 質疑応答・意見交換

15:25 議案採択

15:30 閉会宣言

お疲れ様でした。お気をつけてお帰り下さい。

(この場で懇親会を行います。)

第1号議案 2018年度活動のまとめ

1. 活動日誌、岩木山をめぐる情報・報告

2018年

- 3月14日(水) 弥生ネットが弘前市と懇談6名出席(小堀、阿部、竹浪)
- 3月16日(金) 第3回準備会開催。6団体が参加する中で、実行委員会が立ち上がった。
- 3月16日(金) 観察会下見(阿部、齋藤、藤原)
- 3月18日(日) 第6回岩木山講座「冬の岩木山観察会」(18名参加)
- 3月24、25日 百沢スキー場→(スキー)→焼止避難小屋(テント泊)→(ワカン)→鳳鳴避難小屋→頂上→下山。今年は西からの風が強かったためか、焼止付近大沢右岸に大きな雪庇が出来ていた。春の柔らかい雪でも、午前中は雪庇の下は日陰になるためか凍結しており、スキーのエッジが立たないほどだった。沢を下るスキーヤー、ボーダーは要注意。焼止避難小屋は屋根上1mほどの積雪。2階入口からも出入りが出来るが、小屋に明かり取りがないため、入口を締めると真っ暗となる。明かり取りがほしい。また、避難小屋にストーブを設置してもらえないだろうか。燃料は持参で差し支えないと思うが。鳳鳴避難小屋の入口のガラスが破損し、内部に雪が侵入していた。風圧によるものと思われる。入口の鴨居の材木が腐食しており、覆っているコンクリートが浮き上がってきている。入り口部分の抜本的改修が必要と思われる。おみ坂登坂は氷混じりの雪で、アイゼンなしでも十分可能。山頂へはテラス真下から直登出来た。頂上から眺めた巖鬼山付近、頂上から東側20mほどに大きな雪の割れ目が100mほどの長さで一直線に走っていた。融雪が進むと底雪崩の危険があるように感じた。(竹浪)
- 3月27日(火) 弥生ネット第2回幹事会(小堀、阿部、竹浪)
- 4月 3日(火) 2017年度第13回幹事会(小堀、齋藤、藤原、土岐、佐藤、竹浪、武尾)
- 4月 8日(日) 2018年度総会(弘前市参画センター)出席者21名(うち1名は非会員)。その後懇親会(参画センター総会会場で実施、会費1000円)参加者14名
- 4月10日(火) 嶽コースを8合目まで歩いた。ボードで降りてきた人が山容に感動していた。(藤原)
- 4月30日(月) アオモリドマツがあるという情報があったので黒森へ確認に行ってきた。確認できたのはホッカイドウトマツだった。雪上を歩いたが、帰りは道に迷ってしまった。(齋藤)
- 5月 6日(日) 建石の近くでアライグマ、貝沢の近くでハクビシンの(カモシカも)轢死体を見つけた。(阿部)
- 5月 6日(日) 弥生スキー場跡地調査(石戸谷、松本、平山、竹浪)
- 5月 6日(日) 午後、弥生スキー場跡地南側、毎木調査第2エリア付近でカモシカを観察した。(齋藤)
- 5月 8日(火) 弥生ネットが市公園緑地課と懇談(小堀、阿部、竹浪)
- 5月 8日(火) 2018年度第1回幹事会(小堀、阿部、金枝、齋藤、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))
- 5月11日(金) 弥生1000m 弱のあたりでクマと出会った。(齋藤)
- 5月25日(金) 東北自然保護の集い第2回実行委員会(小堀、阿部、竹浪)
- 5月29日(火) 岩木山スカイラインから9合目、鳳鳴小屋から下へ降りたら雪渓がまだ残っていた。ミチノクコザクラは種蒔苗代付近のみ。コミヤカタバミが咲き始めていた。ミヤマキンバイも咲いていた。(花田)
- 5月29日(火) 旧弥生登山道を歩いた。(齋藤)
- 5月30日(水) 弥生ネット第4回幹事会(小堀、竹浪)
- 5月下旬 会員の柄沢さんより報告あり。9番観音が前方に30度ほど傾いているとのこと。このままだと

倒れてしまうのではないかと危惧していた。赤倉御殿の小さな社が吹き飛ばされて登山道の脇に転がっていた。また鬼の土俵にある社も吹き飛ばされて同様の様子。(竹浪)

6月 5日(火)第2回幹事会(小堀、阿部、金枝、齋藤、花田、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))

6月10日(日)弥生スキー場跡地野鳥調査(小堀、土岐)

6月26日(火)弥生スキー場跡地植物調査(石戸谷、松本、竹浪)

6月27日(水)東北自然保護のつどい第3回実行委員会(小堀、阿部、竹浪)

6月30日(土)弥生ネット・弘前市共催、弥生の森セミナー(30名)(当会10名)

7月 1日(日)弥生スキー場跡地親子観察会(岩木山講座1)参加者(親子10組28人)(小堀、阿部、武尾、花田、齋藤、金枝、竹浪、石戸谷)

7月 2日(月)弥生スキー場跡地ホタル調査(阿部、竹浪、竹浪協)

7月 2日(月)赤倉登山道から登頂。弥生登山道う回路を確認してきた。湿原の一部が刈りはらわれ登山道にされている感じもしたので、もう少し乾いたところに確認が必要と思われた。刈り払いは荒いもので、もっときれいに刈り払いをする必要があるのでは。標識の取り付け、旧標識の修正が必要。26番観音付近の崩落対策で、う回路がつけられていた。崩落が進行しているようでもあり、キレット付近からの再確認が必要。まだ作業中のようだが、作業を急ぎ開通させてしまうために我々も協力する必要があるように思えた。大鳴沢源頭にはまだ200m×300mほどの大雪渓が残っており滑落の危険もあった。軽アイゼン持参がベター。雪渓を越えての登山道への合流が確認しづらかった。視界不良時は迷う恐れもある。鬼の土俵、赤倉御殿の社は吹き飛ばされており、観音像、鬼の像が裸で立っていた。他にも壊れて未修復の観音像も散見された。赤倉登山道の独特の文化遺産が少しずつ消えている。(竹浪)

7月 3日(火)岩木山嶽地域地熱資源開発調査事業温泉モニタリング(齋藤、阿部、竹浪)

7月 3日(火)第3回幹事会(小堀、阿部、金枝、齋藤、花田、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))

7月 4日(水)ゴマシジミ繁殖地刈り払い作業(阿部、齋藤、金枝、小堀、花田、竹浪、宮川)

7月 6日(金)岩木山環境保全協議会総会(小堀、阿部)

7月 7日(土)龍泊ライン竹谷追悼観察会(小堀、花田、武尾、藤原)

7月16日(月)市内小学校に「岩木山登山アンケート」実施依頼で依頼状発送

7月19日(木)岩木山環境保全協議会山道整備打ち合わせ会(竹浪)

7月22日(土)岩木山エコプロジェクト(岩木山観光協会主催)(齋藤、阿部)

7月24日(火)岩木山の雪消失(竹浪)

8月 2日(木)弥生ネット幹事会(竹浪)

8月 7日(火)第4回幹事会(小堀、金枝、齋藤、土岐、竹浪、宮川(会員))

9月 4日(火)第5回幹事会(小堀、齋藤、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))

9月 4日(火)①弥生登山道の状況:津軽百年の森による整備がなされていた。頂上から9合目は幅1m程で草が刈り払われていた。崩れがあった部分は足掛かりの穴が作られ上り下りがしやすくなっていた。急な場所には補助ロープが設置されていた。9合目から8合目に至るトラバース部分で崩れがあった部分は、補助ロープが取り付けられ、安全に上り下りできるようになっていた。但しこの部分は崩れが繰り返されており、今後むき出しの地肌の拡大が懸念される。登山道を使い続けることがいいのかどうか慎重に見守る必要がある。笹竹で覆われていた道は、笹竹が伐採され歩きやすくなっていた。しかし刈り払われた竹に足を滑らせ、登りは1回、下りは3回転倒した。周りの灌木につかまりながら歩いてもこのような状況なので、登山者には注意を喚起する必要があると感じた。8合目の湿地帯は脇にう回路が作られたものの、

水が枯れることなく維持されていた。う回路が湿地の一部に入り込んでいるのではという懸念は杞憂だった。う回路には立入禁止のテープと共に自然保護のために立ち入らないでとの表示がされていた。

②鳳鳴小屋の状況:入口のドアは壊れたガラス交換が行われていた。当会が要望した頑丈なドアの取り付けにはなっていなかった。今年の冬は大丈夫だろうか。

③山歩館の展示:当会がお願いした「ゴマシジミを採らないで」の掲示がなされていた。

④嶽ブナ巨木の森看板撤去:岩木山スカイライン26番に建っていた看板が撤去されていたので、岩木山観光協会小山事務局長に聞いたところ、破損したので森林管理署が撤去したとのことだった。嶽登山道から「ブナ巨木の森」への遊歩道がついているがこれはどうするつもりか、と聞いたところ、整備して利用できなくはないが、クマが出没する区域なので、と整備には消極的だった。使わないのであれば、マップから消す必要が出て来る。

⑤鳥海山頂気象庁地震計:電波送受信用の垂直に立てられていた塔が10度ほど西側に基礎部分から傾いていた。傾きが更に進行しないかどうか注視しておく必要がある。

⑥その他気が付いた点:サンダルを履いてリフトに乗っている客がいた。9合目付近にとどまるのであればいいが、鳳鳴小屋方面や鳥海山に登ったりするのは怪我のもとである。その辺の注意喚起が出来ているのかどうか気になった。注意喚起をする表示などもリフト付近には見当たらない。(竹浪)

8月10日(金) 弥生登山道8合目から赤倉登山道への迂回路設置問題で正確な記事掲載を求め記者会見(小堀、阿部、竹浪)

8月11日(土) 当会の記者会見の様子が記事として掲載。「岩木山無届け刈り払いで考える会「適切な手続すべき」 弘前市対応に見解示す。

8月26日(日) ゴマシジミ観察会(岩木山講座2)(阿部、土岐、花田、小堀)

8月29日(水) ゴマシジミ採集禁止立看板の件で県庁へ要請(小堀、竹浪)

8月30日(木) 弥生ネット幹事会(小堀、竹浪)

9月 1日(土) 弘前市内小学校6年生・教職員を対象とした岩木山登山アンケート開始(~30日まで)

9月 4日(火) 小山岩木山観光協会事務局長に、昨年決めた、お山参詣での携帯トイレ持参方針についてどうなっているか聞いたところ、そういう話はない、とのことだった。当方から、決めたことはきちんと進めるべきではないかと言ったところ、もう一度提起してほしいとのことだった。(竹浪)

9月 7日(金) 東北自然保護の集い第4回実行委員会(小堀、阿部、武尾、竹浪)

9月18日(火) 弥生スキー場跡地観察会下見(小堀、阿部、竹浪、藤原、石戸谷、齋藤)

9月23日(日) 弥生スキー場跡地親子観察会19名(親子3組8名)(小堀、齋藤、竹浪)

9月26日(水) ①鳳鳴避難小屋の状況:9月6日の台風で鳳鳴避難小屋の屋根が飛ばされたいとの情報を9/18小堀会長よりもらったので、調査に齋藤、竹浪で行って来た。鳳鳴避難小屋の屋根のトタンが縦に1~2枚ほどはがれ、板がむき出しになり、中からは空が板の隙間から見える状態だった。降雪前の修理が必要と思われる。また、入り口のドアも再び壊れてきちんと開け閉めが出来ない状態。このことについて、山歩館で当直していた岩木山パトロール隊の方に聞いたところ、修理してもまた破損することが予想される。修理も市民の税金、修理よりは避難小屋自体が50年を経過し耐用年数が過ぎているので、撤去したほうがいいのか、との感想が出されていた。弘前市に問い合わせたところ、応急処置はしたつもりだがとのこと。今年中に修理するという認識はなかったと。遅かれ早かれ、このことが議論にな

ることが予想されるので、当会でもしっかり議論を詰めておく必要がある。

②鳥海山頂の気象庁地震計:アンテナ上部が破損していた。こちらは青森地方気象台に通報。気象台は把握していなかったとのこと。併せて焼止避難小屋隣に設置し破損した傾斜計の再設置計画の進捗状況について聞いたところ、2年計画で百沢スキー場上部に設置する方針を岩木山環境保全協議会事務局の方に伝えていたとのことだった。

③スカイラインの側壁の不具合:スカイラインから帰途中58番目カーブ付近の壁の一部が盛り上がっているのを発見。落下の危険を感じたので、岩木スカイラインに連絡した。スカイラインも気が付いておらず、通報を受け現地調査をしたところ、まだしっかりしているので大丈夫だろうとのこと。報告に感謝、今後留意するとのことだった。(竹浪、齋藤)

- 9月27日(木)印刷・封筒詰め作業実施(齋藤、小堀、土岐、武尾、金枝、藤原)
- 9月下旬 赤倉沢を最終堰堤まで行って来た。堰堤から岩がこぼれ落ちている状態。(花田)
- 9月頃 長平登山口に案内看板が立った。(花田)
- 10月 2日(火)第6回幹事会(小堀、金枝、齋藤、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))
- 10月 8日(木)追子森ルート山行、登山家の K さんが手間をかけて登山道を整備してくれたと聞いて行って見た。非常に歩きやすい径となっており、妻と二人でゆっくり歩いて2時間25分で頂上に着いた。入口の標識がないので、初めての方は案内が必要だが、それ以外は子どもと一緒に楽しめるファミリーコースと言える。岩木山登山はなかなか大変、と言う方いうってつけ。登山道は途中、二子沼への道にも続いている。二子沼への径も K さんたちが整備したと言っていたので、こちらへも一度歩いてみる必要がある。(竹浪)
- 10月 9日(金)弥生ネットが弘前市公園緑地課と懇談(小堀、竹浪)
- 10月中旬 二子沼への道路整備がされた。車でも行けるようになった。(花田)
- 10月23日(火)晴天の中、赤倉コースを赤倉御殿迄行って来た。登山道入り口に26番観音付近の注意書きが出ていた。赤倉御殿のお堂は吹き飛ばされていた。(藤原)
- 10月28日(日)弥生ネット毎木調査(齋藤)
- 11月 赤倉沢の最終堰堤の手前にある岩お堂を覗いてみた。10数人も泊まれる程の広さ。時折外に洗濯物が干されていたりするので、修験者が使っているのだろうか。また、赤倉神社から赤倉沢にまっすぐ登っていく道の途中に古びた小さなお堂がある。そこに3人ほど人が集まっており、お堂を撤去する相談をしていた。(花田)
- 11月 3日(土)弥生ネット毎木調査(齋藤、竹浪)
- 11月 6日(火)第7回幹事会(小堀、金枝、齋藤、花田、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))
- 11月10~11日東北自然保護の集い・白神(63名)(当会より、小堀、阿部、藤原、飛鳥、金枝、齋藤、武尾、土岐、竹浪(以上役員)、藤原竹、小池、倉坪、宮川、竹浪協、阿部玲子、安藤、森山以上16名)
- 11月12日(月)追子森ルート山行。森林博物館所長はじめ、植物の専門家4人含め7人を案内。歩きやすい径と珍しい植生が非常に好評で、今後改めて調査に来たいとのことだった。(竹浪)
- 11月18日(日)廻堰で渡り鳥と岩木山を観る(岩木山講座3)於、鶴田廻堰周辺(16名)(幹事:藤原、齋藤、土岐、小堀、竹浪、以上5名、会員:2名(宮川、藤原竹))
- 12月 3日(月)弥生ネット野鳥調査(小堀、土岐)
- 12月 4日(火)第8回幹事会(小堀、齋藤、花田、藤原、土岐、竹浪、武尾)
- 12月 9日(日)岩木山登山アンケートの件で、協力してくれた学校と市教育委員会へアンケート集約結果を送付

- 12月14日(金) アンケートの集約結果(まとめ)を記者会見(小堀、竹浪)
- 12月18日(火) ゴマシジミの採集禁止立看板の件で、市用地への看板設置手続きのため、市農村整備課に書類提出。基本的に了解が得られ書類は受理されることとなった。(竹浪)
- 12月19日(水) 県自然保護課へ、東北自然保護のつどいアピールの具体化についての要請行動(小堀)
- 12月27日(木) ゴマシジミの採集禁止立看板の件で、県より広告物設置許可書が届いた。

2019年

- 1月 8日(火) 第9回幹事会(小堀、金枝、齋藤、花田、藤原、土岐、竹浪、宮川(会員))
- 1月25日(金) 扇ノ金目山へ。9時前に大石神社を出発したが、林道の除雪は9時から始めたようだ。林道を歩くだけで30分かかった。平地から尾根にとりつく手前の沢はまだ雪で塞がっておらず、またぐのに難儀した。大分上まで沢沿いに歩いてから渡った。雪が少なめなのか、気温が高いのか? 山頂付近はまだ凍っておらず雪が深かった。頂上まで4時間10分。帰りは1時間50分。(竹浪)
- 2月2~3日 弥生コースを山頂へ。雪が深く、普通のスキーでは潜ってしまう。前にファットスキーの踏み跡があったので幸いだった。森林限界で一泊(所要時間4時間40分)。夜は氷点下15度まで下がった。森林限界から上は、雪が締まり、普通のスキーでは直登は困難だった。カンジキで行く。耳成岩から上の急斜面はカンジキでも十分上がれる。森林限界から頂上まで3時間弱。頂上に危険な空洞が見つかったので、岩木山観光協会に報告した。その際、観光協会小山事務局長より、岩木山パトロールから大沢左岸、錫杖清水の上部辺りに幅15m 程のひび割れがあるとの情報を得た。これらの情報は観光協会 HP に掲載されている。(竹浪)
- 2月 5日(火) 第10回幹事会(小堀、金枝、齋藤、藤原、土岐、竹浪、武尾、宮川(会員))
- 2月 7日(木) 写真展「私の岩木山」展示準備(小堀、花田、金枝、齋藤、藤原、土岐、竹浪、他会員多数)
- 2月8~10日 写真展「私の岩木山」於、NHK 弘前ギャラリー(154名来場)
- 2月21日(木) 津軽森林管理署より、後長根沢と赤倉沢に堰堤を設置する計画があるとの連絡があった。詳細を教えてください、日程を調整し訪問することにした。(竹浪)
- 3月 1日(金) 津軽森林管理署に小堀、阿部、竹浪の3人で出向き、後長根沢への新たな堰堤設置計画について説明を受ける。高橋、木村両治山技術官が対応。
- 3月 5日(火) 第11回幹事会
- 3月14日(木) 弘前市民参画センター団体用レターケース使用申請書提出。現参画センターは6月23日で閉館とのこと。7/1からヒロロ3階に移動。
- 3月19日(火) 扇ノ金目山に4名を案内、雪上トレッキング。大石神社前から北に向かう林道終点8:20発、山頂11:40着、13:20下山。カンジキでゆっくり登れた。帰りは雪が腐っておりぬかる。スノーモービルの圧雪跡を辛うじて歩いて戻った。頂上から見た烏帽子岳までのやせ尾根はかなり雪庇が伸びていた。赤倉沢左岸尾根の頂上で雪崩があったらしく、頂上の稜線から 50m 程下方に大きなデブリが出来ていた。(竹浪)
- 3月23日(土) 春の雪上観察会(岩木山講座4) 於、平沢周辺(20名)(幹事:藤原、齋藤、小堀、花田、金枝、竹浪)
- 3月24日(日) 陸奥新報3面に「岩木山登山アンケート」の記事が大きく掲載された。(別紙)
- 3月26日(火) 岩木山地熱資源開発調査事業報告会(嶽さわやかホール) 当会出席せず、資料の送付を受ける。(別記)
- 3月28日(木) 弘前市からゴマシジミ保護の立て看板設置に関する「行政財産使用許可書」が届いた。
- 4月 2日(火) 第12回幹事会(小堀、金枝、齋藤、藤原、竹浪、武尾、宮川(会員))

2. 2018年度のまとめ

(1) 岩木山講座・観察会を一般市民の参加のもと行う

【まとめ】

今年は年間を通じて4回の岩木山講座を開催しました。計画は座学も含め、6講座でしたが、諸事情で2講座を中止としました。講座を通じて、岩木山とその周辺の豊かな自然を満喫できたように思います。講座を実施するにあたり、万が一の事故対策として年間の団体保険に加入しました。

岩木山講座① 弥生スキー場跡地親子観察会

(弘前市「親子で自然観察会 in 弥生 スキー場跡地(弥生の森)」と兼)

日程 7/1(土)10時～12時

集合 弥生いこいの広場駐車場

参加者 43名(親子10組28名、岩木山を考える会:8名、コープあおもり:3名、弘前市:4名)

様子・感想 新たな企画として、「生きものさがし」を行った。

- ・こういう形が良いのではないかな。
- ・子どもたちが好きなものはムシ、ザリガニなど。自分で探す
- ・上り下りが大変だった。谷から上に上らずに戻ってくればよいのではないかな。
- ・班分けは難しい。コースの再検討が必要だ。
- ・殿様道路からの入口の開放が必要だ。
- ・いこいの広場に遊びに来る人に対して、跡地のアピールをするには地道に観察会を開くのがいいのでは。

岩木山講座② 岩木山嶽ゴマシジミ観察会

日程 8/26(日)10時～12時

集合 嶽農村公園駐車場

参加者 5名

様子 小雨で観察は20分くらいで終わった。出現数は3～4頭。もっといるはずだが、まだ大丈夫だと阿部先生。早々に切り上げてミズバショウ沼の方を見て回った。

岩木山講座③ 廻堰で渡り鳥と岩木山を観る

日程 11/18(日)10時～12時

集合 鶴田廻堰公園駐車場

参加者 16名

様子・感想 野鳥の会の方々が進行を担当していただいた。

マガン、ヒシクイ、シジュウカラガンなどが田んぼに集まっていたが、あれだけの至近距離で見られることはほとんどなく、参加者も感動していた。廻堰には数万羽の野鳥が浮かんでおり、野鳥の会の方々が提供してくれた望遠鏡を熱心に覗いていた。

岩木山講座④ 春の雪上観察会～平沢周辺～

日程 3/23(土)10時～12時

集合 岩木運動公園駐車場

参加者20名

様子 前日から雪が降り当日も強く、事前の計画通りに行かなかった。当日の判断で、時間短縮でウォーキングをすることにした。それでも見るポイントをいくつか歩くことは出来た。

幹事会は、チラシに書いていた集合場所「岩木山総合公園入口」は、石坂洋二郎の碑のある入

口と考えていたのだが、文字通り「総合公園入口」に行った方が5人いた。結果的に5人は集団から遅れてしまい、十分説明を聞くことが出来なかった。その方々からは、公園入口と言えば、こっちの方、そちらに集合するのだったら「石坂洋二郎の碑のある方の入口」とか書かないとわからない、と指摘された。幹事会の思い込みが混乱を招くことになり反省。

参加者からは、説明があつて、いい学びが出来たとの感想が出されていた。

(2) 写真展「私の岩木山」を例年のように行う

【まとめ】

日程:2月8日(金)~10日(日)

会場:NHK 弘前ギャラリー

入場者数154名(去年 219名) 1日目:26名(65名) 2日目不明(93名) 3日目不明(61名)

出展者14名 出展数68点(去年18名 出展数 72点)

様子:参加者からは、面白かった、良いです、などの回答をいただいた。

来場者に寄り添いながら、この人はこういう視点で撮っている、と説明してあげれば、見に来た人もよりよく分かるようだ。

この写真展は出来栄を競うものではなく、一人ひとりの想いを自分の視点で表現してもらっている写真展。岩木山への思い入れが感じられるので、是非多くの方に足を運んでもらいたい。

(3) 弥生スキー場跡地の観察と学習を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。

【まとめ】

① セミナー「弥生の森づくりを考える」~「人口減少時代」に向き合える自然保護と公園づくりとは~

6月30日(土) 13:30~16:00 於、弘前市民会館大会議室

講師:高川晋一氏(公財)日本自然保護協会市民活動推進室長(資料1)

報告1: 弥生スキー場跡地の経過と現状(弘前市公園緑地課)

報告2: 弥生スキー場跡地の自然(弥生ネット)

参加者30名(当会より10名)

弘前市と共催の企画で、弥生跡地の保護と活用のあり方について、公開の学習と討論を行いました。講演では、全国の事例紹介がされ、地域の抱える課題と跡地の貴重な資源をどう結びつけて新たな発想につなげるか、という問題提起がなされました。いずれにせよ、市がどこまで本気になってこの課題に向き合うかが決定的です。弥生ネットの会合では、市との話し合いの中で認識を共有していくことにしました。

② 弥生跡地の自然調査活動

今年も、当会が加入している弥生スキー場跡地を考える市民ネットワーク(以下、弥生ネット)が2011年から継続している、弥生跡地の毎木調査、動物調査、植物調査、野鳥調査を実施しました。毎年得られるデータは、弥生スキー場跡地の自然回復の状況を判断する上で貴重です(資料2)。

5/6、竹浪、松本、石戸谷、平山の4名で弥生スキー場跡地調査を行いました。いこいの広場左手の林の中の枯葉や動物の糞などの堆積場でカブトムシの幼虫を見つけました(弥生いこいの広場で繁殖させているものだとのこと)。また、跡地北側の沢でハコネサンショウウオを確認しました。

6/10、当会の小堀会長、土岐監事(日本野鳥の会弘前支部会員)の2名で野鳥調査を実施しました。観察された野鳥は30種。新たに観察された鳥は3種(カワウ、アオサギ、ウグイス)でした。

6/26に実施した植物調査では、当会会員に協力いただき3名で実施、235種の植物をカウントしました。11年からの延確認種数は359種になりました。

7/1に毎木調査を実施し3名で計測。対象木30本の幹回りは1年間で平均2.4cm成長していました。同日、動物調査も実施し、蝶など18種を確認しました。

7/2初めて、阿部幹事以下3名で、ホタル調査を実施しました。殿様街道付近の沢や沼を実施。ヒメボタルを確認しました。ヘイケボタルらしきものを調整池付近でも見ましたが、捕獲できず。ゲンジボタルは6月半ばに出たそうです。

11/28に、秋の毎木調査を2名で実施しました。1年間の成長は2.0cmでした。

12/3に、秋の野鳥調査を2名で実施しました。観察された野鳥は10種類。新たに観察された鳥はありませんでした。12月に入ると観察される野鳥の数がぐんと減ることが判りました。2013年から始めた野鳥調査は、この6年間で62種が観察されています。

③ 弥生跡地での観察会

弥生スキー場跡地での観察会は今年も2回実施しました。いずれも、弘前市が「親子で自然観察会 in 弥生スキー場跡地(弥生の森)」として実施しているもので、弥生ネット、岩木山を考える会が全面的に協力しています。観察会の名称について、これまで「弥生いこいの広場隣接地」という名称をつけていましたが、協議の結果「弥生の森」という固有名称を使って行くことになりました。

第1回は7/1(日)に、岩木山講座①として実施しました(7ページに記載)。第2回目は9/23(日)に実施しました。1回目の参加者は親子を含む43人。2回目は19人でした。2回目は1回目の反省から、観察コースを平坦な場所に変えて実施しました。講師に、新たに日本野鳥の会弘前小山支部長の協力を得ました。今年から『『弥生の森』生きものがし』のリーフ(資料3)を参加者に配布し、活用しています。2回の観察会を成功させるために、事前調査を実施しました。観察会終了後、コープあおもりの皆さんの協力で豚汁をいただきました。

(4) 岩木山の自然調査を進める

① 観察会や調査会を市民とともにに行い、結果を記録に残す

【まとめ】

今年も4回の岩木山講座の実施、弥生跡地の自然回復調査と2回の観察会、嶽農村公園付近の刈り払いとゴマシジミの観察会を行い繁殖状況の把握等を行いました。(各項目に記載)

7/24(火)、弘前市から見た岩木山の雪が完全に消失しました。

② 弥生跡地の生物調査を行う

【まとめ】

・ 8ページ②に記載

③ 長平登山道の湿地調査を継続して行う

【まとめ】

8/10(金)に予定していましたが、中止となりました。

④ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)

【まとめ】

7月1日に実施した生物調査で捕獲した生物の同定をしてもらっています。

⑤ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える

【まとめ】

特になし

(5) 岩木山の環境保全に寄与する

① 登山道等の整備を関係機関に働きかける

【まとめ】

(ア) 登山道整備に関する弘前市の方針に対して

7月19日(木)に岩木山環境保全協議会の登山道整備打ち合わせ会が開かれました。会からは竹浪事務局長が出席しました。案件は弥生、百沢、嶽、大石赤倉登山道の整備等の対応についてでした。市からは以下のような提案がありました。

「市の管理しているエリアは、百沢、嶽、弥生、赤倉の各登山道。最低限の安全を確保したいので、協議会会員団体にそれぞれの登山道の安全管理を依頼したい。予算が100万円あるので、4本の登山道整備にそれぞれ謝礼を渡したい。」

当会からは、次のような指摘と主張をしました。協議会として各団体が一緒に各登山道を現地調査し、修理の必要な場所を指摘してきた。指摘されたところを弘前市が整備する、というやり方をしてきたはずだが、なぜそのやり方を変えるのか。民間団体に各登山道の整備をまかせるというやり方は安易に過ぎるのではないか。万一事故があった時の責任が問われかねないことにもなり納得できない。

市の答弁は、市が業者に委託すると、100万円の予算では登山道1カ所しか整備出来ないのでは、会員に協力してもらいたい、というものでした。

当会はこのやり方に反対しました。いつもは協議会の決定は全員が合意になるような議事を進めるのですが、この打ち合わせ会では強引に市の方針が押し付けられました。結果的に、嶽・百沢コースを岩木山パトロール隊が受諾、弥生コースを津軽百年の森が受諾、赤倉コースは岩木山を考える会と勤労者山岳会に要請されましたが、当会は対応しないと声明。山岳会は草刈り程度なら対応してもよいが土留などは無理ということで赤倉コースの整備は宙に浮きました。

打ち合わせ会と称して市が招集した協議会でしたが、会長も出席せず、事務局の市がこのような重要な問題を一方的に取り仕切り、各団体が十分な議論を行う猶予も与えずに市の方針を押し付けるというやり方は、これまでの協議会の全体の納得と合意に基づいた運営の仕方を壊すやり方と言わざるを得ません。

(イ) 弥生登山道の整備をめぐる

去年の当会総会で、弥生登山道8合目から上部に迂回路がついたとの報告をしました。併せて、「付け替え道路の新設を良い機会と捉え、山頂→赤倉→弥生登山道の周遊ルートを作り観光アピールしたらどうかとの提案が協議会で出されています。」との報告もし、当会としては「慎重な議論が必要」とまとめました。

ところが、この迂回路の取り付け作業の手続きが不備で、マスコミから無許可伐採と大きく報じられることとなりました。当会にも、「どうなっているんだ」との問い合わせがありました。実施された迂回路取り付け場所は、自然公園法の特別保護地区に指定されており、伐採にあたっては許可を得なければならないことは当然です。岩木山環境保全協議会の議論も、そのことは当然の前提として進められており、誰もが許可が得られていないとは思っても見ませんでした。市の担当者によると、迂回路取り付け後、雪が降ってしまったので、翌年雪が溶けた時点で確認し許可を得る予定だったそうです。それがなされる前に、この問題が取り上げられ大きな話題となってしまった、というのが経過のようです。

いずれにせよ、2017年8月に開催された環境保全協議会総会では、迂回路をつけることが全体の合意とされ、上記記載のように、周遊ルートを作り観光アピールをしたらどうかとの提案もなされていたほどでした。そして、この周遊ルートを提案をした当該の団体が、今度は迂回路は無断伐採だとマスコミを通じて市を非難しているのです。

本来ならば、市の手続きが遅れているのであれば、その旨を指摘し、迅速な手続きを警告する、と

というのが、それまで同じ場で議論を重ねてきたもの同士のあるべき態度ではないでしょうか。そのような形にならなかったことはまことに残念と言わざるを得ません。

7月19日に開かれた岩木山環境保全協議会登山道整備打ち合わせ会では、弥生登山道の付け替え道路の取り扱いについて議論が行われ、当初廃道にすることに決めた8合目以上の旧道は、改めて整備をすることになりました(津軽百年の森に整備を委託)。8合目からの付け替え道路の取り扱いについては、津軽百年の森が8合目から上を整備した段階で、必要かどうかを検討することにしました。当面、立入禁止扱いとなりました。また、この打ち合わせ会議で、付け替え道路を開くにあたり市が手続きを踏まずに行ったことが問題となり、市として森林管理署に陳謝に行くことになりました。

上記の通り、7月19日にはこの問題が既に議論され、市は課長が会員に対して陳謝し、森林管理署にも陳謝に行くことになっていたのです。それにも関わらず、8月8日にマスコミに大きく報道されました。

当会幹事会は、この問題がマスコミで報道されて以降、以下のように対応しました。

8/8 「岩木山特別保護地区の樹木 弘前市が無断伐採」(東奥日報)、「岩木山特別保護地区に登山道迂回路 弘前市無届け刈り払い」(陸奥新報)の見出しで記事掲載。

8/8 岩木山環境保全協議会各会員団体と協議

8/9 各マスコミ一斉に「無届け伐採」を取り上げる。

8/9 竹浪事務局長が市に出向く。観光振興部長以下が対応。誤解を与えるような内容なので、会として記者会見を開き、当会の見解を述べる旨伝える。

8/10 小堀会長、阿部幹事、竹浪事務局長の3人が市役所記者クラブに出向き記者会見(資料4)。

8/11 岩木山無届け刈り払いで考える会「適切な手続きすべき」弘前市対応に見解示す(陸奥新報)→当会の記者会見の様子が記事になった。

肝心の弥生登山道の整備については、(ア)に記載したように、津軽百年の森が8合目から上を整備することになり、9月に整備を終えたとの報告書が冊子で当会に届きました。報告書では8合目から上の整備は津軽百年の森が行った。8合目から下は弘前市が整備したと言っているが実際には整備されていないと記載されています。実施状況について、当会としても確認が必要です。

(ウ) 岩木山赤倉登山道の整備

赤倉登山道の26番観音付近の崖の崩落が進み、登山道が危険になってきている問題は、当会がこの間何度も指摘をしてきました。この指摘が実り、18年度、迂回路をつける方向となってきましたが、7月6日の総会ではこの問題は議論されず、7月19日の登山道整備打ち合わせ会の場で、上記(ア)の提案がなされ、記載の結果となったのでした。しかし、民間への委託が不調だったからと言って整備しなくていいということにはなりません。弘前市としてどうするのが問われることとなります。

(エ) その他、岩木山環境保全協議会総会での提言

7月6日に岩木山環境保全協議会総会が開催されました。総会には、小堀会長と阿部幹事の二人が出席しました。今回も、登山道整備をはじめとした岩木山の保全・整備等に関して意見を述べました。(資料5)提出した意見に対してその場で回答があったものは以下の通りです。

1) 赤倉登山道の整備は再検討する。

2) 焼止・鳳鳴小屋の整備は予算次第で対応する。

3) 嶽口の入山ポストは、冬場に雪の中に埋もれてしまうので、ポストだけ外して付け替える予定。今年度中に実施する。

4) 入山ポストに投函された入山者のデータは以下の通り。

H29年1～12月 590通、592名、トータル人数1805名

H30年1～6月 140通、141名、トータル人数320名

これ以外の課題については、次回の会議に検討する。

上記にも記載したように、登山道整備の件では、総会后7/19に打ち合わせ会議が開かれましたが、その後、開かれないままだったので、10/2に竹浪事務局長が、観光政策課に情報交換会を開催するのではないかと問い合わせたところ、遅くない時期に登山道整備の件で会合を持つつもりだとのことでしたが、結果的に開かれませんでした。

② 岩木山に関する情報を会員、岩木山パトロール等と協力しながら市民に伝える

【まとめ】

(ア) 焼止、鳳鳴避難小屋について

焼止の避難小屋は、相変わらず、2階入口の庇が壊れたままになっています。鉄の梯子も外れたままで、木製の梯子が置かれていますが、誰もが使える状態にはなっていません。

鳳鳴避難小屋は、屋根のトタンがはがれたままで冬を越しました(日誌9/26参照)。

(イ) 弥生いこいの広場の整備について

2016年3月に市が作った弥生いこいの広場の整備計画が止まっています。10/9に弥生ネットが公園緑地課と懇談した際に、予算のめどが立たず、壊れている動物厩舎の改修にとどまっている旨が話されました。今後の動向を見守ります。

(ウ) 気象庁の地震計、傾斜計について

9/26に鳥海山頂にある地震計をチェックしたところ、破損が観られたので青森気象台に通報しました(日誌参照)。2017年に破損した傾斜計については、弘前市、青も地方気象台に確認したところ百沢スキー場リフト終点の施設付近に設置する予定とのことでした。スキーヤーには邪魔にならないところを考えていて、2019年9月頃に工事に入る予定だそうです。

(エ) 岩木山嶽地域地熱資源開発調査事業について

5/9嶽常盤野地区さわやかホールで、調査事業の説明会が開催され、当会から小堀、阿部、竹浪の3名が出席しました。スマートシティ推進室から2018年度の掘削調査日程の報告がありました。

1) 6月:資機材搬入・やぐら設置、7月:掘削調査(50～1700m)・試験など、11月撤去・復旧

2) 温泉モニタリングを4月から開始。

7/3温泉モニタリング実施、当会から齋藤、阿部、竹浪が参加。湯段の三上1号泉のモニタリングの様子を見学しました。2014年からモニタリングを継続しているそうで、温度、湯量等を見ているとのこと。湯段の温泉源は深さ400mほどのところにあり、嶽の深さ200mほどの温泉源とは違うとのこと。

始まる前に係の西田氏(基礎地盤コンサルタンツ株)から、岩木山を考える会は地熱発電をどのように見ているのか聞かれたので、原発などとは違い、自然エネルギーの活用と言うことで期待をしているが、自然環境破壊につながることは避けるべきとの立場であることを説明しました。

2019/3/26調査事業報告会の場で、掘削の結果、1400m以深で130℃～200℃程度の熱が推定されたとの報告がありました。しかし発電には200℃以上の温度が求められるため、「発電事業は難しい」との結論となりました。掘削した井戸は埋めて原型復旧し、地熱資源開発調査事業は終了するそうです。但し、嶽さわやかホール横に掘った井戸から55℃程度の湯が出たので、今後利用の仕方を検討するとのことでした。

(オ) 岩木山登山アンケートの実施

9月いっぱいかけて、弘前市の小学6年生と教職員を対象に、岩木山に登ったことがあるか、また登ってみたいか、などのアンケートを実施しました(資料6)。市内の小学校35校中24校が協力して下さ

り、回答してくれた生徒は763名/1370名(55.6%)、教職員の回答者は332名/661名(50.2%)でした。

アンケートの結果、頂上まで登った経験のある子どもは3割弱で、ふもとから歩いて頂上まで登った子どもは33名(4.3%)にとどまりました。他方、岩木山に登ってみたいかという問いに対して、544名(71%)の子どもが登ってみたいと答え、その内、半数の274名がふもとから歩いて登ってみたいと答えました。こうした子どもたちの気持ちに大人がどう応えられるか、私たちにどのようなことが出来るか考えていきたいと思えます。

アンケート結果について12月14日に記者会見を行いました。その内容を陸奥新報が3月24日大きく報道しました。(資料7)

(カ) 後長根沢への新たな堰堤の設置

3/1、小堀会長等で津軽森林管理署に説明を聞きに行ってきました。それによると、後長根沢には2015年までに新たな堰堤が3基設置されましたが、しかし、その後、ゲリラ豪雨などによる被害が発生しているため、林野庁として流木災害防止対策を推進しているとのことで、後長根沢が危険なため、上流域に新たに2基設置する予定とのことでした(資料8)。2019年6月から工事を始めるそうです。当会からは、堰堤の設置は際限がなく、もっと根本的な安全対策、避難予知対策などをすべきだとの意見を述べました。危険な区域は他にもあるそうで、順次対策を講じる予定だとのこと。危険な地域の情報は弘前市土砂災害ハザードマップで見ることが出来ます。当会としても検証が必要です。

③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める(立看板の設置)

【まとめ】

今年の刈り払い作業は、7/4、あいにくの小雨でしたが7名が参加し、草刈り機2台で広範囲を実施できました。ワレモコウの繁殖を期待したいと思います。

ゴマシジミの保護のために刈り払いを行っていることを、ここを訪れた人にも理解してもらうために、看板の設置に取り掛かりました。看板自体は夏に完成したのですが、市や県の許可取得に手間取り、結局年度内設置には至りませんでした。しかし、2018年12月27日付で県知事の許可が出、弘前市からも2019年3月28日に許可が出たので、4月以降設置作業に取り掛かる予定です(資料9)。

④ その他の活動・課題

【まとめ】

(ア) 岩木山周辺の清掃活動の取り組み

今年も岩木山観光協会主催エコプロジェクトが7/22と10/15の2回実施されました。1回目は70名ほどで取り組まれ4班に分かれて岩木山周辺に不法投棄されているゴミや落ちているゴミを拾いました。当会からは齋藤幹事、阿部幹事が参加しました。2回目は参加者10数名と少数でしたが、横浜市からの参加者もあり、岩木山に対する熱い思い入れが感じられました。

(イ) 龍泊ライン竹谷追悼観察会

2018年1月に亡くなられた竹谷清光さんが最後に実施を望んでいた龍泊ライン観察会を、7/7に「追悼観察会」として実施しました。場所が遠距離のため一般公募を募るのは難しいと判断し、公開しませんでした。小堀会長など4名が参加し、竹谷さんの妹さんのご自宅を訪問、歓談し、その後鳥瞰台まで足を延ばしました。

(ウ) 県の環境保護の法制化に向けた課題

風力発電施設や太陽光パネルの乱立など、再生エネルギー開発により、県の自然環境が脅かされていますが、それに対する有効な対応・運動が進められていません。環境保護条例の法制化など、今後取り組むべき課題があります。他団体と連携しながら取り組みを検討する必要があります。

(エ) 他団体との連携

東北自然保護の集いの成功に向け、県内の他の自然保護団体と交流・連携する機会がありました。今後も県内の共通課題について、連携協力を図る必要があります。

(6) 会報を年3回発行する。(4月、9月、12月)

【まとめ】

今年も藤原幹事が編集長となり、紙面企画と原稿の割り振りを行いました。予定通り、75号(4/27)、76号(9/27)、77号(12/25)の三回発行しました。執筆依頼を幹事だけでなく、観察会参加者にも個別にお願いしています。小倉幹事が入力・レイアウトを担当しています。

会報の印刷発送作業は、毎回幹事が参画センターに集まり、みんなで行っていきます。

会報は現在、関連個人・団体に向け、160部を発行しています。

(7) 幹事会を月1回行う(会員の参加自由)

【まとめ】

昨年度、体調を崩し幹事を下りた方が、復活されました。また、会員の宮川さんが自由参加で毎回会議に参加して下さっています。竹谷さんがなくなられたために副会長は空席です。

会議は4月から毎月開催し、合計12回の幹事会が開催されました。議長は毎回幹事が交代で行っています。

(8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。

【まとめ】

ホームページの更新を再開しました。葛西事務局が編集を担当しています。主に会報のアップですが、必要な情報をその都度更新しています。ぜひ、ホームページをご覧ください。フェイスブックでは、行事の紹介などを中心に行っています。

ホームページ <http://www.iwakisan.jp/>

フェイスブックは、フェイスブックサイトから検索で見られます。

(9) 東北自然保護の集い青森大会を成功させる

【まとめ】

今年のはじめは、当青森県が主幹担当となり、「第39回東北自然保護の集い・白神」として、「人間と自然との共存のあり方を考える」をテーマに、11/10～11日、西目屋村ブナの里白神館を会場に開催されました。

開催に向けた準備は、2017年11月から始まり、準備会も含め7回の現地の打ち合わせ会や、県自然保護課を招いた学習会を実施しました。現地実行委員会には、当会の他、青森の自然を守る連絡会議など6団体が参加し協議を重ねました。

当日の参加者は63名(福島6、宮城6、山形8、秋田3、岩手5、青森35)で、当会からは16名が参加しました。青森県からの参加団体は、当会を含め6団体(弘前勤労者山岳会、マタギ舎、野鳥の会弘前支部、野鳥の会青森支部、青森の自然を守る連絡会議)でした。

行政からは、津軽森林管理署、青森県自然保護課が来賓として参加、環境省西目屋事務所からの一般参加がありました。

集会は、鹿内博氏の司会のもと、テーマに沿って、講演「世界遺産白神山地25年のこれまでとこれから」(弘大:石川幸男先生)と、基調報告「国定公園岩木山麓における自然保護～弥生ネットの取り組み～」(阿部東)が行われ、それぞれ質疑が行われました。その後、二日間にわたって討論が行われました。各県からの報告は次のような内容です。

「福島県内における再生可能エネルギー開発の現状と課題」高橋淳一(福島)

「放射性廃棄物焼却問題」芳川良一(宮城)

「秋田白神入山禁止見直しを提案」佐藤昌明(宮城)

「最上小国川ダム住民訴訟」高桑順一(山形)

「秋田県のツキノワグマその後」奥村清明(秋田)

「岩手の自然保護」望月達也(岩手)

集会の最後に大会アピール採択が行われました。アピールには、①生物多様性の保全のために今後も各地で活動を展開する。②「東北はひとつ」との思いを持ち、協力、連携して活動を展開する。③関係行政機関の情報公開や事業の検証、及び説明会等による住民参加の確保、充実を求める。④「緑の回廊」に関してはその意義を重視し安易な開発行為を認めない。⑤改めて白神山地世界遺産25年を検証するとともに、「白神山地の管理については、行政側の組織だけで検討するのではなく、自然保護団体など白神山地の自然に実際に関わってきた人々を加えた話し合いによってすすめること」の実現を関係機関に強く求める。との5つの趣旨が盛り込まれました(資料10)。

集会の最後に、東北自然保護のつどいの開催横断幕を青森県から岩手県に渡す「引継ぎ式」が行われました。2019年は岩手県が開催県となります。40回という節目の大会で、開催県からは各県の40年の振り返りをしてほしい、との要請が出されています。今後準備をしていく必要があります。

< 討議で出された意見等 >

1. ホタルは蔵助沢付近でも見ることが出来る。
2. 最近の登山客には外国人がすごく多くなってきた。英語の看板もあればいいと思う。
3. 市役所と会との関係が弱いのではないか。もっと強くアピールすることが必要だ。
4. 百沢スキー場のそばには動物が多い。クマもよく出て来る。きりがないので誰も報告しない。増えてきたのはアナグマ、キツネ、ハクビシン、アライグマ。アライグマは増えすぎて被害が大きい。殿様道路の付近に出て来る。ニホンジカは森山の裏側で目撃情報があった。
5. 鳳鳴小屋の改修も必要だ。
6. 岩木在住のKさんという方が子どもたちを集めて自然に触れ合ったり、山に連れて行っている。こういう方にも声をかけて、今後若い会員を増やしたらどうか。
7. 火山活動についての学習も必要ではないか。機会があったらお願いしたい。火山のハザードマップはあるか。(調べてみる)
8. 百沢登山道が危険。大沢の中間点や坊主転がし部分など、一般登山道としては危険になりつつある。
9. 弥生登山道8合目から上は、融雪後チェックが必要。赤倉 26 番観音付近は早晚崩れる可能性が。巻き道を維持するとか工夫が必要。
10. 岩木山登山は、教職員に関心を持ってもらうことが必要。初任研などでやってもらえるように教育委員会に申入れをしたらどうか。
11. 教師は忙しいし、危険を考えると、昔と違ってなかなか登山を実施できる環境にはないかも。

以上

第3号議案 2019年度活動方針

- (1) 岩木山講座・観察会を一般市民参加のもと行う。
座学講座を検討する。
- (2) 写真展「私の岩木山」を例年のように行う。
- (3) 弥生スキー場跡地の観察と学習、調査活動を市民と協力し行い、長いスタンスでの岩木山研究の拠点とする。
- (4) 岩木山の自然調査を進める。
 - ① 観察会や調査会を市民と共にやり、結果を記録に残す。
- ② 長平登山道の湿地調査を継続して行う
 - ③ 種名同定依頼の指導(植物・動物・昆虫)
 - ④ 会員による貴重な調査記録等を整理し次世代に伝える。
- (5) 岩木山の環境保全に寄与する。
 - ① 登山道等の整備を関係機構に働きかける。
 - ② 岩木山に関する情報を会員、岩木山パトロールと協力しながら市民に伝える。
 - ③ ミズバショウ沼のススキの刈り払いを行い、ゴマシジミの保護を進める。(立て看板の設置許可をもらったので日時を決め岩木山観察協会と一緒に設置する)
- (6) 会報を年3回発行する(4月、9月、12月)
- (7) 幹事会を月一回行う(会員の参加自由)
- (8) ホームページ「岩木山を考える会」を継続する。
- (9) 東北自然保護の集い第40回に参加する。

昨年の青森県大会の大会アピールに沿って東北の自然保護団体の意見が白神世界遺産に反映されるよう実行委員会(解散)のメンバーと共に行動する。
- (10) 登山アンケートが実りある具体的な活動になるよう、岩木山パトロールや労山に協力してもらいながら進めていく。